



Title	ペルーで目にした語彙と表現
Author(s)	森本, 久夫
Citation	Estudios Hispánicos. 1984, 9, p. 55-74
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/97900
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ペルーで目にした語彙と表現

森 本 久 夫

1

1982年3月から1983年3月までの1ヵ年にわたるペルー滞在中に、日常会話、新聞、雑誌、勤務先の大学、旅行の折々にとくに注目させられた単語や表現をノートしてきた。その状況ごとに、それらの言葉をどう理解したか説明していきたい。ただ、ここにとり上げるものは偶然私の注目を惹いたものにすぎず、積極的に語彙調査をし、整理したものではないことを断っておきたい。したがって非常に限られたものであって、私のペルーでの活動範囲の狭さを示す結果になろう。ただ、その国の文化の一端をそこで生活する人々の使用する言語を通して理解できると信じる故に注目してきたし、その結果を以下のようにまとめておきたいと思い立った。

2

まず失敗談からはじめる。リマに到着した翌朝、大使館へ行くために早速タクシーに乗ることにした。その前に予備知識をと思い、なん人かの人に私の住むことになったサン・イシドロ区からヘスス・マリア区までの位かかるのか尋ねたところ、タクシーの運転手にまず交渉して、彼の言う値段から200ソル位安くさせて乗ればいいということだった。街頭で止めたタクシーの運転手にいくらするかというと、200だという。前任者の染田氏からタクシーの運転手はソルの代わりにリブラ（1リブラは10ソル）を使うことが多いときいていたので、その200というのは200リブラ（2000ソル）のことかときくと、そうだという。400ソル値切ると運転手はそれより200ソル高い1800ソルにせよという。そこで妥結して大使館に行った。館員たちとの雑談の折、私は他の人の忠告通り交渉して200ソルまけさせ

1800ソルでここまで来たが、それでよかったのかときくと、その車はどんな車だったかとたずねられた。フォルクスワーゲンだったというと、みんな笑いながら、それは高すぎる。いくら高くても 800 ソルだという。2 倍以上の料金をとられたことになる。しゃくだったがあとの祭りである。それからはリマの物価の事情もわかるにつれ、法外な料金をふっかけるタクシーの運転手とはよく喧嘩した。あっさり笑って半額以下にする運転手もおれば、乗ってくれなくてもいいと言って、空車のまま立ち去るのもいた。ただ一度、年老いた運転手のタクシーでしつこく値切ると、私は外国人であろうと高い値段を言ったことがないと真剣に怒り出したことがあった。私はペルーに出かける前に前述の染田氏から詳しく事情をきいていたので、タクシーに関して最初にあげた失敗以外にいやな想いをするものもなかったし、大変便利に思い、よく利用した。しかし、言葉の通じない人には不安でもあり利用するのが不便なときもあろう。というのは、ネクタイを着用した人には高い料金をふっかける傾向があり、メーターはなく、料金は客と運転手の交渉で決まるからであり、まただれでも TAXI という表示をつければその場で自家用車がタクシーに早変わりするから地理に疎い運転手は行先によって客を断ったりする。

次におどろいた例を挙げる。街頭で突然、*¿Qué hora tiene?* (何時ですか) ときかれた。自分がたずねられたとは思わないから歩きつづけると同じ問いがくりかえされ、自分がたずねられていたことにはじめて気づいた。なぜ、その前に *Oiga, señor.* あるいは *Dispense, señor.* とか言わないのかしらと思った。イスパニアでは必ずといっていいほど、断ってからでないとい人に物をたずねることはないと思った。このような断りなしの物のたずね方にはその後数え切れないほど出くわした。私だけでなく、他の日本人もよく時刻をたずねられるという。たぶんそれは、ほとんどの日本人は腕時計をしており、ホワイト・カラーの人は別としてメスティーンやインディオはふつう時計をもたないからであろうと思われた。

時刻の表現で、街路で会う人もテレビのアナウンサーでも、いろんな表現を行なう。たとえば 2 時15分の場合、

(Son) las dos y cuarto. 以外に、

Dos quince.

Dos y quince.

Dos con quince minutos.

3時5分前の場合,

(Son) las tres menos cinco. 以外に,

Cinco para las tres.

Dos y cincuenta y cinco. (または, cincuenticinco) などとなる。

次に, de の省略が気になった。たとえば商店などで, 「開店時間 8時から 12時まで」が, Horas de atención: las 8 a las 12 といった表現がほとんどで, たまに de las ocho a las doce となっているとほっとしたものがある。

Abierto: Lunes a Sábado.

(開館日は月曜から土曜まで)

新聞での de の脱落した例を挙げると,

Precisaron que las roces con la policía se han producido sistemáticamente durante los días 18, 19 y 20 de enero, a pesar que los trabajadores hacían los esfuerzos necesarios para no dar lugar a ninguna intervención policial. (*El observador*, 23 de enero de 1983)

(労働者が警察の介入を避けるために必要な努力をしていたにもかかわらず, 警察との摩擦が組織的に 1月18, 19, 20日の間に起こったと発言した)

文中の a pesar que は a pesar de que の de が脱落したものと考えることができる。また estar seguro que ... (…と確信している) と表現する人もいる。この現象は sindeísmo と呼んで, 週刊誌 Oiga (1982年9月6日号39頁), 日刊紙 Expreso (1983年2月15日付) でイスパニア語(ペルーではカスティーリャ語と呼ぶ)を破壊するものとして非難されている。前者では, “... pero tengo la certeza que ~”(しかし, ~と確信している)は “... pero tengo la certeza de que ~” とすべきだと述べている。後者では TEMA という欄を担当している Gabriella Di Maggio が「antes(después) que, a pesar que. nos enteramos que など, 当然 de が間にこなければならぬのに脱落させる人がいる。a pesar de todo, antes de almuerzo というのなら, なぜ de を省くのか」と反問している。

この省略傾向が次のような表現, または略語の多用とも共通するよう思われたがどうだろうか。

テレビで, アナウンサーは番組を終えるとき Permiso という。また, バ

スで人をかき分けて降りようとする人は大抵 *Permiso, Permiso* という。前者は *Con(su) permiso* のことだと思うし、後者の場合 *Perdón* のことではないかと思う。

人を訪ねると、ペルー人は *Asiento* と行って席をすすめてくれる。これは *Tome asiento* のことと理解している。こうした場合、イスパニア人では *Siéntese* という人の方が多いように思う。

el APRA (*la Alianza Popular Revolucionaria Americana*) は最大の野党で国会でいつも与党を激しく追求するのをよくテレビの面画を通して目にしたものだ。略語で *el APRA* と冠詞が *la* から *el* に変化するのは発音のためであろう。サン・マルコス大学が *la UNMSM* (*la Universidad Nacional Mayor de San Marcos*), 国立工科大学が *la UNI* (*la Universidad Nacional de Ingeniería*), 大統領までが *FBT* (*Fernando Belaunde Terry*) と略されると、略語好きなのはアメリカや日本と共通していると思った。

なお、先に触れた *Oiga* 誌, *Expreso* 紙の中では *sindeísmo* の反対の現象として *dequeísmo* が指摘されている。これは接続詞の前に不必要な *de* を入れる現象である。“... *lamentó de que su equipo no pueda coronarse campeón* ...” (彼のチームが優勝できないのを嘆いた), その他 *pienso de que, opino de que, parece de que* などといった表現が閣僚, 国会議員, 政治家, あらゆる分野の専門家などによって行なわれるのにあきれており, 社会の指導的立場に立つ人が誤った表現をつかうと一般の人はそれをならい, 外国人にその誤ちを笑われる結果になると警告している。私はそれを笑う気にはなれなかった。日本語にも同じ状況を見出しているからである。とくにそこでも指摘されているアナウンサーたちの誤った表現は彼らの影響力が大きいだけに危険である。

3

acá adv. ここ (= *aquí*). *aquí* よりよく使う。

achipaya f. 砂漠の *lomas* によく見かけるパイナップル状の植物。岩壁の岩と岩の間に、あるいは他の植物にやどり木のように寄生しているものも見かけた。

achira f. [植] カンナ。

ahorita *adv.* *ahora* の縮小形。縮小辞は *ito*, *ita* がよく使われるような気がした。*lueguito* (←*luego*), *mondonguito* (←*mondongo*), *carrito* (←*carro*), *cerquita* (←*cerca*) など。

ají *m.* トウガラシ, 料理の味つけに非常によく使われる。*pimiento*, *chile* という言葉はほとんどきいた記憶がない。第1卸売市場 *Mercado Mayorista No. 1* には首都圏で消費される野菜類が集結するが, そこを見学したとき, *ají* にも赤いものだけでなく, 黄色, 紫色のもあり, 種類の多さにおどろいた。

ajonjolí または **aljonjolí** *m.* [植] ゴマ (= *sésamo*)

alpaca *f.* [動] アルパカ。荷物を運ぶのに使われているが, 毛が長く, 織物や毛糸の材料になる。リマヘクスコ周辺からよくインディオがアルパカ製品を売りにきた。

Aló, aló 電話での「もしもし」(= *Oiga*)。 *Oiga* と言う人はない。みんなこの *aló, aló* を使う。 *Oiga*. や *Diga*. になれた私は自然にこの表現が出来るまでしばらくかかった。

ancashino, a ←*Ancash*

andinismo *m.* 登山 (= *alpinismo*) アンデス山脈の走っている国だけに, 登山家は *andinista* である。

antara *f.* ハープ型にいくつかの長さの異なるフルートを順にくっつけたフルート。 *zampoña*, *flauta de pan* とも言われるようだ。

anticucho *m.* 牛の肝臓の串焼き。私の好物のひとつだった。

(el) **APRA** (= *la Alianza Popular Revolucionaria Americana*) アプラ党。委員長に *Alan García* が1983年選出された。

altiplano *m.* 高原。ボリビアでも, この言葉を使う。*Tiahuanaco* の遺跡を見学に行ったとき, 案内してくれたボリビア人のハイメさんに *altiplanicie* という言葉を使わないのかときくと, 意味は解るが, *altiplano* を使うとのことだった。イスパニアでは *meseta* となるところである。

arequipeño, a ←*Arequipa*.

Arriba, abajo, centro, entro. アルコールの入ったコップを *arriba* といながらささげ, *abajo* といながら下げ, *centro* といって口許もっていき, *entro* と言って飲む。パーティーでよく見かける。またワインのまわし飲みの習慣がリマなど海岸に近い地方にあるという。男はびん

を受けとり自分のコップに注ぐ。びんを次の男性に渡してからワインを飲み、空のコップをその人に渡す。その人は受けとったコップにワインを注ぐとびんを次の人に渡してからワインを空ける。ただし次の人が女性の場合はびんは渡さず、まずコップを空けて女性のためにワインを注いで、そのコップを女性に渡し、びんは女性をとび越えて次の男性に渡す。

arroz con marisco paella に似た料理で、魚貝類が入っている。

arroz con pollo チキンライス。arroz con marisco 同様 paella に似ているが、クランドルを入れるとのこと。

arveja verde f. みどり色の小粒の豆。高橋正武氏の「西和辞典」に「すずめのえんどう」とある arveja の訛りか。

Así es. その通りです (= Eso es.)。ほとんどのペルー人が肯定するとき Eso es. といわずに Así es. という。

¡Asiento! お坐わりください (¡Tome asiento! の略か)。¡Siéntese! という人にはほとんど出くわさなかった。

ayacuchano, a ← Ayacucho

Ayacucho ここで、1824年12月9日ペルーの独立を決定づける戦いが行なわれた。副王時代の様子が一番残っているところとか。かつては Huamanga と呼ばれた。Sendero Luminoso という過激集団の運動が盛んで、訪ねることに反対する人が多く、訪ねずじまいになった。

azúcar rubia f. 精製前の砂糖。リマからパンアメリカン・ハイウェイに沿って北上、Ancash に近づくと砂糖きびの畑を見かけるようになる。Trujillo の辺りがペルーでの砂糖の主産地とのこと。

balsa de totora チチカカ湖の葦舟。totora の根は白い。食用になる。チチカカ湖畔では牛が totora を食べようとして水中に入っているのが見かけられる。

balsero m. balsa を漕ぐ人。

baño m. 便所。風呂がついておろうとなかろうと baño という。リマからリマック川沿いに上流へ行ったところにあるカントリー・クラブ El Bosque で、トイレの場所をきくため、excusado を使ったが使用人には通じず、baño と言ってはじめて教えてもらうことができた。

boleto m. 切符。billete も使うが、バスではこの言葉が使われていた。

borracho m. [魚] ボラチョ。磯場で釣り上げられる魚。黒っぽい色の魚で、はなの辺りにひげのように皮膚がつき出ている。頭部や皮膚にリンが含まれていて、それを食べると酔っぱらったようになるのでこの名がある。Pucusana では土地の漁師は食べるとのこと。

bote m. てんま船。Pucusana では漁師つきで1時間2000ソル程度で借り、よく釣りに行った。主に *calamar*, *furel (jurel)*, *cabrilla*, *caballa*, *trambollo*, *cavinza (cabinsa)* などを釣り上げた。小さなエンジンを載せており、それで沖に出た。

botero m. bote の船頭。

caballito m. (de totora) 葦舟。Trujillo の近くの Huanchaco の海岸で、海から引き上げられ、砂浜に立てかけられている *caballito de totora* をみた。その地の漁師の説明では細長い葦舟に馬にまたがるようにまたがって漁をするため、この名が生まれたという。1回の漁で80～100キロの魚を積んで帰ってくるという。

cabinsa (cavinza) f. Pucusana では素人にでもよく釣れる。海底から50cm位のところで餌にくいつく。スズキやアジに似た魚で、15,6cmのものが多く。

cabrilla f. 底ものの魚。trambollo より大きいものが多い。刺身にするとう美味。

cachar 性交する。

cajamarquino, a ← Cajamarca

calato, a 裸の (= desnudo, a)

caleta f. 小さな港、入江。Chiclayo tiene pintorescos puertos y caletas de pescadores. (PERU—M. I. C. T. I.) (チクラヨには美しい港や漁師たちの入江がある)

camote m. サツマイモ。煮魚や cebiche のような魚貝の酢づけ料理に煮たサツマイモが添えられる。

canciller m. 外務大臣 (= ministro de Asuntos Exteriores)

(la) Capital Arqueológica de América クスコ。

(la) Capital Folklórica del Perú プノ。diablada のような仮面劇など民俗舞踊で有名。チチカカ湖に面した都市。この地方のインディオの女性は陽焼けした頬をしている。

carcancha f. 生きかえった死者 (= *muerto animado*)。モチーカ文化 (Lambayaque 地方) の陶器にそうした死者と性交する人物が描かれているものがある。

carnada f. 魚を釣るための生き餌。Pucusana では *cebo* という言葉は使わない。

carpa f. テント (= *tienda*)。Sears という百貨店で *venta de carpa* とあるので鯉の販売かと思うと、テントを張って設けた売場での特売のことであった。

carpeta f. 学校の椅子つき机 (= *pupitre*)

carrito m. ミニチュア・カー。

cau cau こま切れにした牛の胃壁を煮込んだカレー状の料理で米飯にかけて食べる。

cerquita no más. すぐ近くです。田舎で道をたずねると、よくこの返事が返ってきた。よく一緒に旅をしたペルー人のレオナルドは、田舎ではすぐ *Cerquita no más.* というが、実際はなかなか目的地に着けないことがあると言って笑っていたが、私は日本でも同じことだと思った。

cebiche m. 生まの魚や貝を酢でころして作る料理。aji が使われていてぴりっとする。煮たサツマイモが添えられることがある。pejerrey や macha のセビチェが美味だと思った。

(la) **Ciudad Blanca** Arequipa のこと。Arequipa は Misti という火山の近くにある都市で、イスパニア風のたたずまいが、たとえば鉄格子のはまった窓や石だたみの街路に感じられるが、sillar という白い熔岩の切石が使われているために白い都市という名が生まれたとか。

(la) **Ciudad Imperial** Cusco のこと。インカ帝国の首都だったためであろう。

cochinilla f. エンジムシ。サボテンに寄生する虫で、それから出る赤色をインディオは染料に使う。Cordillera Blanca 近くの高原で多くの cochinilla を見つけたことがある。

col chino m. 白菜。日系、中国系の農民が栽培しているという。

colectiva f. 乗合タクシー。特定の路線を Ford の大型車で走る。

Conococha 海拔4100m の峠で、海岸線から東上し、ここを越えて Cordillera Blanca の地域に入る。Laguna Conococha があって鱒が美味である。高

度のため酔った感じがした。soroche であろう。

corbina f. ハマチ大の魚。Chancay の浜で釣り上げようと 2 度挑戦, 1 日中がんばったがついに 2 度とも釣れなかった。

corrido adj. 連続した。

El horario de atención en las tiendas es corrido. (店はずっと開いています) ; - ¿Atienden por la tarde? (午後店をやっていますか) - Todo corrido. (ずっと開けています)

crédito m. 単位。大学での修得単位のこと。

crisocola f. 青緑色の turquesa peruana と呼ばれる石。hidrosilicato de cobre.

cucharita f. コーヒースプーン (= cucharilla)

cueca f. 南米西方諸国の舞踊とその音楽。zamacueca.

Cusco または **Cuzco** クスコの綴りは両方が使われている。この地名は Takuantisuyo 帝国の 4 つの suyo の軸または中心を意味する kosko(cosco) というケチュア語の言葉からきたし、ケチュア語には z の音はないから Cusco の方が正しいと主張する人がいるが、現実には Cusco, Cuzco 両方が使用されている。

cusqueño, a (cuzqueño, a) ← Cusco (Cuzco)

cuy conejillo de Indias のことでモルモットであろう。ネズミというより小型のウサギのような感じがする。全身白いのと黒いのがいる。Chavín de Huántar で昼食を摂ったレストランの裏庭にはウサギやニワトリと一緒にクイが放し飼いされていた。Caraz の町でクイ料理を食べたが、皮だけはいで丸焼きというのは少しグロテスクな感じで、思ったほど美味ではないと思った。

chacchar 噛む (= masticar)。chacchar la coca. (コカを噛む)

chacra 畑 (= hacienda pequeña)

chalaco, a ← el Callao

chancho m. 豚 (= cerdo)

chiao チャオ。親しい間柄では大抵「チャオ」と言って別れるようである。Adiós. はほとんどきかなかった。Juliaca で運転を頼んだハイヤーの運転手になぜあなた方は Adiós. を使わないのかときくと、永遠の別れという感じがするという答えが返ってきた。

chiclayano, a ← Chiclayo

chicha de jora アレキパその他の地で飲まれるトウモロコシ製のビール。
コロンブス以前から飲まれていたという。

chicha morada f. 紫のトウモロコシで作った甘い清涼飲料水。

chifa f. 中国料理店。中国料理のペルーへの浸透はおどろくべきもので、
ペルーの料理書をみると、大抵 **chifa** のために 1 章さいていることから
もうかがえる。

chompa f. セーター (= jersey)

choro m. 貽貝 (= mejillón)。ペルー、チリにかけてチョロと呼ばれると
のこと。

chorrillano, a ← Chorrillos

chosicano, a ← Chosica. チョシーカはリマの東、リマック川上流にあ
り、「太陽の都」と呼ばれている。冬場、リマで曇天がつづく時期にも陽
光があるためだろう。

chullpa f. チチカカ湖周辺のアイマラ族の遺跡に残る埋葬用の塔形の記
念物。プノ近郊の Sillustani の遺跡ではみがいた石でつくった円形のも
のを見た。

chuño m. 国立考古学人類学博物館の説明によると、ジャガイモにはにが
いものがあって、このチューニョはそのひとつだという。ところが市場
ではチューニョという名でジャガイモの乾燥したものを売っている。白
い粉をふいた乾柿のような姿をしている。

chupe m. アレキパ料理のひとつ。ジャガイモ、肉、牛乳、チーズ、トマ
トなどを煮込んだもの。

Dale, dale. 「オーライ、オーライ」。車をバックさせるとき、見張りをす
る人が運転する人に声をかける。

De igual manera. あなたの方も (= Igualmente)。プノでのこと、ウロ族
の島から帰って、クスコからきたという女学生の群れと別れるとき、
Buen viaje, señoritas. と言うと、口をそろえて De igual manera. と答
えてくれた。

De repente ya. たぶんね (= Quizá) あまり上品な表現ではないと評し
た人がいた。

diablada f. フリアカ、プノからボリビアにかけてみられる奇怪な仮面を

つけて踊る民俗舞踊。フリアカ市の競技場でボリビアの舞踊団によって演じられるのを見たことがあるが、悪魔が天使と戦って敗れるストーリーかと隣の席のインディオたちにきくとそうだと返事だった。

dictar 講義する。

en vivo 生中継。テレビの画面に出る。

escuchar きこえる。受話器を耳にあてて *No se escucha.* と言っている人をなん度か見かけた。状況からみて *No se oye.* (きこえません) の意味に使われていると思う。

(la) escuela cusqueña (cuzqueña) クスコ派。ヨーロッパから新しい画法が入ってきたとき、原住民出身の画家たちが、ヨーロッパ画法を学んで主として宗教画を描いた。その一群の画家たちのこと。彼らの作品にインディオ的なものが感じられる。彼らの絵画を *pintura cuzqueña* と呼ぶ。

fardo funerario m. インディオは死者を布で包んで埋葬したが、その包みのこと。

Fiestas Patrias ペルー独立記念日。7月28日、29日。

file m. ファイルを買いに行き、私の頭に浮かぶファイルにあたるイスパニア語で通じず、こういうものだと言明すると、店員は *file* のことかと英語を使った。

foco m. 電球 (= *bombilla*)

furel または **jurel m.** [魚] アジ。

granadilla f. 外観はザクロ (*granada*) に似た果実。アケビのような種が多い内容物が固い皮の中に入っている。

Gracias, permiso. 「では、これで失礼します」。テレビのニュース担当のアナウンサーが終わりに言う。

granja f. 養鶏場 (= *pollera*)。ニワトリにキャッスル病など病気がつかないように砂漠の中に養鶏場が作られている。

guindón m. *José Antonio* というペルー料理店で食事をしたとき、*amorado* というデザートをとったら、中に乾した桃のような甘い果実がでてきた。名前をきくと *guindón* だという。*guinda* とは別の果実とのこと。

huaca f. 遺跡。

huaco m. 土器。*huaca* から出土する。

huachafería *f.* 田舎や中流階級の人々。

huachano, *a* ← Huacho

huaico (**huayco**) *m.* 土砂くずれ (= *alud*)。リマからオロヤ方面にかけて Carretera Central という幹線道路が走っているが、夏場雨が多く、途中で huaico が多く旅せずじまいになった。またリマの水源地で huaico が起こり、数日水道が止まったことがある。

huamanguino, *a* ← Huamanga

huantino, *a* ← Huanta

huanuqueño, *a* ← Huánuco

huaquero *m.* huaca の盗掘をする人。

Huaraz Ancash の首都。capital andinista del Perú と呼ばれる。

Huascarán Cordillera Blanca にあるペルーでの最高峰 (6768m)。万年雪をいただく峰の岩の亀裂に水分が入り、それが凍り、なだれを起こすという。1962年と1970年になだれが起こり、ふもとの Yungay の都市をおしつぶした。私たちが訪ねたとき、別の場所に新市街地が建設され、近くの丘の墓地が悲劇を語りかけているような気がした。

huayno *m.* ペルーの山岳部の民謡。インカ時代からの舞踊音楽。

huiró *m.* トウモロコシの若い茎。Cajamarca のカーニバルでは楽器として使用するという。

Inty Raymi 6月24日クスコ近くの Sacs(y)huamán の広場で行なわれるインカ時代の太陽に祈りをささげる祭りを再現するもの。観光客は車でおしかけ、広場に設けられた階段状の観覧席で見物。地元のインディオたちは遺跡の両側の山の斜面に陣取る。なん万人の人が集まっているのか想像がつかないほど、人の山である。みんな徒歩でなん時間もかけてやってくるという。地面を掘っている人が多いのでなにをしているのかたずねると、昼食を作るのだという。ジャガイモ、肉を蒸し焼きにするとか。祭りが終わって夕ぐれの迫る山の稜線を見上げると影絵のように1列に並んで人々が移動していた。

iqueño, *a* ← Ica イカはペルーの代表的なワインの生産地。ナスカも近い。

jalar 引く (= *tirar*)。デパートのドアなどに Empuje (押せ), Jale (引け) の表示が出ている。イスパニアでは Empujen, Tiren と表示されて

いるところである。

jirón m. 街路。リマ市では *calle* と呼ばれるところが少く、 *avenida*, *jirón* が多い。

kero m. インカ時代に儀式でトウモロコシを醸酵させて作った酒を飲むために使った器。木製が多い。

kipu または **quipo m.** 結び目をつけたひも。インカは数を示すものとして使用、文字の代用としての役目も果たしたようである。

lambayecano, a ← *Lambayeque*.

lampa f. スコップ。

lapicillo m. 鉛筆 (= *lápiz*)

libra f. = 10 soles. タクシーの運転手が、この貨幣単位をよく使う。

Lima ペルーの首都。Rímac 川からこの名称が生まれたとか。Rímac という言葉は「しゃべる川」というケチュア語だと *Juan de Arona : Diccionario de peruanismos* にある。1535年1月18日フランシスコ・ピサロが建設した。

limeño, a ← *Lima*.

lisa f. [魚] ボラ。Ancón で漁師になにが釣れるかという、 *lisa* だと答えた。また、Chancay の突堤で *lisa* の子の群れに釣針だけをつけた糸を投げ下ろしてひっかけている少年たちを見たことがある。

lomas f. pl. 太平洋沿いの砂漠で冬の霧が多く出る頃、その湿気を吸っているような植物が芽を出す。3, 4 週間で成長し、開花して実を地上に残して枯れていく。その植物群を *lomas* と呼ぶ。9月に4度にわたってリマの北方 Chancay 近くへ見学に行ったが、その植物の中にはトマトやジャガイモの原種に近いものもあった。Lomas Lachay では農業省の手で空気中の湿気を植物の成長へ役立てる研究が行なわれていた。ここでおどろいたのは、一夜の塩分を含んだ風のために *lomas* が消えてしまう現象で信じられない想いがした。

lonchera f. 弁当 (箱)。英語の *lunch* からきたのではなかろうか。

llama f. [動] リヤマ。荷物運搬に使用。毛も使われる。alpaca と似ていてよくまちがえて笑われた。

macha f. 黄白色の貝。2枚貝で、魚釣りの餌によく使った。cebiche の材料にも使われる。

machete m. 魚でイワシに似て背に黒い斑点がある。

malaguas クラゲ (= medusa)

marinera f. エクワドル, ペルー, チリにかけての民俗舞踊。ハンカチを振りながら男女が踊るのが印象的。

mate m. ひょうたんの乾燥したものを器に使用。装飾として表面にいろんな図形が刻まれる。

matico m. [植] マチコ。hierba de soldado と呼ばれる。山岳地方出身の Leonardo によると咳に効くという。

mazamorra f. トウモロコシの粉でかゆ状にしたもの。貧しい人々の間でよく食べられているとか。

mistiano, a ← Misti. arequipeño, a の同意語として使われることがある。

mondongo m. 牛の胃壁やジャガイモを煮込んだ料理。召使いの Victoria は自分の作る mondongo を mondonguito italiano と呼んでいた。

moqueguano, a ← Moquegua

muy muy m. 4, 5 cm の長さの白っぽい甲殻類。cabrilla, caballa など釣るときの餌に使った。Leonardo によるとスープにするとよく「だし」が出て美味とか。

no más Acá no más. (ここへ), Cerquita no más. (すぐ近くです) など、会話の中でよく使われる。

No se escucha. 「きこえません」(= No se oye.) 電話口でこの表現をつかっている人にはじめて出くわしたのは日系2世だったので、その人だけの誤ちかと思ったが、その後、いろんな人が同じ表現をするのに気づいた。

odisea f. いや気 (= fastidio)

“Voy a describir, con entera fidelidad y lujo de detalles, la odisea que significa hacer una llamada telefónica desde los lares mencionados ...”
(Oiga, 1982年11月15日号)

ómnibus m. バス (= autobús)

¡Oye! まあ、そんなこと (= No me digas.) 「ねえ」と相手の注意を自分の方に向けるために oye というのはイスパニアでよく見かけるが、相手の発言にあきれて言う oye はペルーではじめてきいた。

pachamanca *f.* 土に穴を掘り、それに熱した石を入れ、それで肉を蒸し焼きにする料理。

paita アマゾン川でとれる大型の魚。水面に背をみせて泳ぐ姿はイルカかアザラシを思わせる。

panetone (panettone) 乾しブドウなどの果実入りのパン。クリスマスに食べる。イタリア人が持ち込んだ習慣だと説明してくれたペルー人がいる。

palta *f.* アボガド (= aguacate)

pallar *m.* (ペルー産の) インゲン豆。

papa *f.* ジャガイモ。 (= patata)

papy *m.* お父さん。 (= papá). ¿Dónde se fue mi papy ?

paradero *m.* (バスなどの) 停留所 (= parada)

paradita *f.* 屋台。ambulante と呼ばれる露天商人の屋台のこと。

pepino *m.* 野菜の「きゅうり」以外に瓜科の果物にも pepino と呼ばれるものがある。野球のボール大の円形で、紫がかったたて縞がある。

peña *f.* 若者たちが飲食してダンスをするところ。

periódico amarillo 日和見主義の新聞。

(la) Perla de Amazonas Iquitos.

Permiso. (= Con su permiso) Con を省略して permiso だけを言う人が多い。

pinche para BBQ バーベキュー用金串。

piscigranja *f.* 養魚場。

pisco *m.* Pisco で産出する焼酎 (aguardiente)。卵白を加えて作る pisco sour を好む人が多い。

plátano *m.* バナナ。banana といっても通じるが、ふつうペルー人は plátano と呼ぶ。Mercado Mayorista No. 2 は果実専用の卸売市場だけに、非常に多くの種類と量のパナナがみられる。主として北東の selva からくるといふ。

playa *f.* 駐車場 (= estacionamiento)。はじめてリマの中心部で playa privada の表示をみたとき、クラブ制のプールかなと想像したものである。

Plaza de Armas 中央広場 (= Plaza Mayor)。イスパニアの Plaza Mayor,

メキシコの Zócalo にあたるものを Plaza de Armas と呼んでいる。

poncho m. ポンチョ

poro m. ネギ。puerro の訛りだろうか。

pueblo joven 貧民区。sierra から職を求めてやってくる多数の人々が都市の一面に住みついて tugurio (スラム街) をつくる。その現象を tugurización と呼んでいるが、それを避けるためにリマの場合は市街地以外の地域を指定して、そこに人々を住ませる。そして新しい pueblo joven が誕生する。水不足、医療の不足、職場への交通費のかさむことなどいろんな社会問題をかかえている。一番大きい問題はそこに住む人に充分職場のないことだという。アルコールによって不満を解消しようとして中毒にかかる人が多いとか。その人たちの精神治療にたずさわった医師の言によると、ここに住む人にいい職場を提供しない限り、精神病院につめかける人は減らないだろう。

pues Ya pues. Sí pues. と意味もなく Ya, Sí のあとにつける人が多い。
quincha よしず。貧しい人々が pueblo joven に住むとき、quincha を四方に立てかけ上部にのせて家にする。

puneño, a ← Puno

quena f. インディオが古代から現代まで使用してきたフルート。ふつう骨、葦、テラコッタでできている。

quinua (quinoa) f. [植] キノア。小さなごま状の実は食用にされる。ボリビアのグアキのインディオの店でキノアの入ったスープを飲んだことがある。

replana f. ペルーの盗賊、ならず者たちの隠語。

rocoto m. トウガラシの大きいもので、とくに辛い。はじめて口にしたとき、腹痛を起こした。高橋「西和」、Larousse に rocote という形も載っているが、私のペルー滞在中はもっぱら rocoto の方に接した。

salchipapa f. ポテトチップ (= patata frita)

¡ Salud! だれかがくしゃみをする、みんな ¡ Salud! という。¡ Jesús! という人がない。はじめの頃、¡ Jesús! というのは私独りということがよくあった。

sancochado m. ユカ、肉 (豚肉が主)、バナナなどの入ったスープ状の料理。

San Martín de Porres リマが生んだ聖人で、この名を冠する区域がリマの一部にあり、この名をなめる大学もある。Porres と Porras の両方が使われている。Cusco と Cuzco の混用と同じで、外国人にとってはまぎらわしい。

Santa Rosa de Lima San Martín de Porres 同様リマが生んだ聖女。8月30日が彼女の祝日。リマ市の Tacna 通りのリマック川沿いに彼女の生家の跡が教会として残っているが、教会の壁はバラ色に塗られている。彼女の奇蹟を信じて疑わない1人の女性によると彼女の奇蹟が起これるときリマの空はバラ色になるという。

(el) **Santo de la Escoba** San Martín de Porres のこと。

selva f. ペルーを大きく分けて *costa*, *sierra*, *selva* と区別する。リマ市は *costa* に、クスコは *sierra* に、イキトスは *selva* にある。

La Costa, de interminables desiertos, la Sierra, con sus valles y cumbres de nieves perpetuas y ... ¡por fin la Selva ...! Sabrá de inmediato que está llegando a la jungla del Amazonas cuando el horizonte se vista de verde y los ríos le parezcan serpientes encantadas. (Iquitos – FOPTUR) (果てしない砂漠の海岸部、峡谷や万年雪の峰々のある山岳部、そして密林部、地平線が緑色になり、川が魔法にかかった蛇にみえるとき、アマゾン川に到着するのだということがすぐわかるでしょう)

semanario m. 週刊誌 (= *revista semanal*)。代表的なものに *Caretas* と *Oiga* がある。誤植や記事の脱落の多い新聞に比べ、よく出来ているという印象をうけた。

sencillo m. 小銭 (= *menudo*)

(el) **Sendero Luminoso** Huamanga 大学の教官だった Abimael Guzmán (1934～) をリーダーとするゲリラ集団。

Señor, señor. 街頭で道をたずねたりするために相手の注意を自分の方に向けようとして *Señor, señor.* という。イスパニアでは *Oiga, señor* というところであろう。

shillico, a ← *Celendín*

sobremesa f. 食後の談笑。

Sol de Oro 貨幣単位。ふつう *sol* だけで表現する。

soroche m. 高原症。Carmina Glucosa という薬がいいとすすめてくれる人もおり、クスコのホテルでは mate de coca というコカの茶を供してくれた。

(la) Suiza peruana el Callejón de Huaylas のこと。Cordillera Blanca にある。

sumilla f. 要約。カトリック大学では学期はじめに講義内容の要約を学生の課目選択のために作成するが、sumilla と呼んでいる。

tacneño, a ← Tacna

tambo m. インカ時代の chasqui の交代する駅。

tollo または **toyo** [魚] 市場では tolo が多い。tiburón と区別するが、私には両者の区別がつきにくいままに終わった。

tollo diamante m. 大型のサメ。

trambollo m. 底ものの魚で、黒っぽい色をしている。フライにしても刺身でも美味。Pucusana では cabrilla ほど大きいものは釣れなかった。

tránsito m. 一方通行 (= único sentido)。

trujillano, a ← Trujillo。Trujillo の近くには Chan Chan の遺跡がある。土ばかりでできた都市では世界一とのことだった。壁に残る鳥、ネズミの浮彫りが印象に残った。

trusa または **truza f.** ブリーフ、パンツ。男子用ブリーフは trusa para caballeros と書かれている。

tumi m. 半円形の刃の銅またはブロンズ製の小刀。Museo Oro del Perú には黄金製の tumi が保存されている。インカ以前に生まれ、戦争、外科手術、家事等いろんな用途に使用されていたという。チムー文化では黄金、トルコ石が使われ、儀式用に作られた。

urbanización f. 急速に拡張されていくリマの都市では新市街地ができるが、そこに urbanización tal y tal と名称がつけられる。そのため、住所にこの名称をもつ人が多い。

vainita f. [植] サヤエンドウ。

vicuña f. [動] ビクーニャ。コンドルとともに、ペルーの野生動物の代表とされているのに、高原に行くビクーニャにはついに出くわす機会がなかった。

vidriera f. 窓ガラス (= cristal)。cristal という言葉を使う人に会わ

なかった。

vincha f. 髪をおさえるヘアースバンドまたはスカーフ。インディオ社会では男女ともに使い、その形や色でその人の仕事や身分を区別したとのこと。

vizcacha f. ウサギに似た齧歯動物。大きさもウサギぐらいで大変おとなしい。ペルーからボリビア、パラグアイ、アルゼンチンにかけて分布しているとのこと。

voltear ターンする。NO VOLTEAR EN U (Uターン禁止) という道路表識がパンアメリカン・ハイウェイに出ていた。

vuelto m. 釣り銭 (= vuelta)。

ya sí (はい) の意味の **ya** がよく使われる。Ya, ya. が Sí, sí. の意味である。ボリビアでも同じとみえて, Guaqui のレストランで ¿Tiene café? (コーヒーはありますか) ときくと、お内儀は Ya pues. と答えた。

yuca f. ユカ芋。mandioca のこと。

yungaino, a ← Yungay

zapallo m. [植] カボチャ。大型のを Mercado Mayorista No. 1 では **zapallo gigante** と呼んでいた。市場での量をみると、papa, ají とともにペルーの代表的農産物であることがわかる。calabaza はヒョウタンの意に使っている。

4

私が以上とりあげてきた語彙や表現は必ずしも教養ある人々の使用しているものではなく、いたるところでメモしたものであるから誤りも多いと思う。私自身の誤解もあろう。

現在ペルーで使われているイスパニア語にケチュア語からきた語彙がかなりあるように思った。とくに地名や考古学的事物に目立った。

次に気になったのは語末の **s** の音の脱落である。oficina de correos があるとなると、まず oficina が脱落するから correos だけになってしまい、最後の **s** は発音しないため correo と変わらなくなる。郵便といえば、街頭に buzón がなく、投函するのに必ず郵便局まで行かなければならなかった。またインフレ傾向がきついため、料金の改訂がよく行なわれ、

新しい estampilla (sello と说不ない)が間に合わず、旧い料金の切手に新しい料金を印刷して間に合わせるが多い。habilitación と呼ばれていた。

また発音のことであるが、s と z はともに [s] であるため trusa と truza, Cusco と Cuzco のような混用が起こるのではないかと思った。

なお、file のところで述べたように、英語の語彙が入り込み、定着する可能性が大きいように思った。とくに文具、機械類など新しい製品が出廻わると、それに該当するイスパニア語が生まれる前に英語名が定着するのではないだろうか。あるいはイスパニア語風に修正されていくかも知れない。lonchera を見ていると、言語における aclimatación を感じるのだがどうだろう。

ペルーでも新しい言葉が生まれていく。licuador (ミキサー), extractor de jugos (ジューサー), papel aluminio (アルミ箔), sofá-cama (ソファベッド), tabla-vela (ウインド・サーフィン) など。

carro, castellano, chirimoya (バンレイ, 白い果実は甘い), choclo (若くてやわらかいトウモロコシ), churrasco (鉄板焼きの肉), humita (トウモロコシ製のまんじゅう), jíquima (芋), lata (かん詰め) など、イスパニア本国のイスパニア語を学んできた人間として関心をさそわれた語彙は他に多いが、ペルー以外でも共通すると思われるものは意識的に割愛した。

最後に、ペルーでの 1 カ年の生活のチャンスを作ってくれた染田氏に心から感謝の意を表したい。

[参考文献]

- Juan de Arona: *DICCIONARIO DE PERUANISMOS*, Ediciones PEISA, LIMA, 1974
- Guillermo E. Bendezu Negra: *ARGOT LIMEÑO o Jerga Criolla del Perú*, LIMA S.A., Lima, 1977
- Federico Kauffman Doig: *EL PERU ARQUEOLOGICO*, KOMPAKTOS Ediciones G.S., Lima, 1976
- César A. Guardia Mayorga: *DICCIONARIO KECHWA-CASTELLANO CASTELLANO-KECHWA*, EDICIONES POPULARES LOS ANDES, Lima, 1980, 6 a ed.
- 日 刊 紙 *El Comercio*
 ♪ *El Observador*
 ♪ *Expreso*
 週 刊 誌 *Oiga*
 ♪ *Caretas*